

北陸ベンチャー 強さを探る

高速道路の安全・安心を支える路面センサーを手掛けるベンチャーが山田技研（福井市）だ。路面の積雪や凍結の状況が分かる製品を高速道路会社や国土交通省などに納入している。主力の一つが黄色い外観の「道路パトロールカー」に搭載する塩分濃度システム。凍結防止剤を効率的にまく

道凍結防止 センサー駆使

山田技研

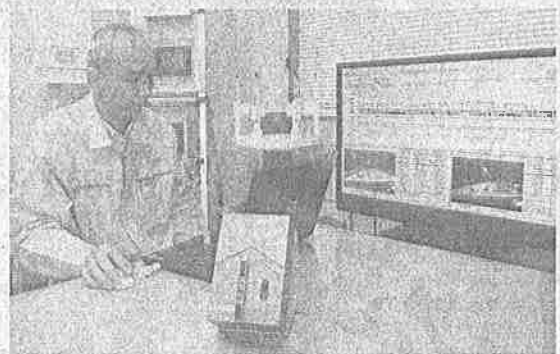
作業を支援できる。

車に設置し測定

車の後部に塩分濃度センサーを取り付け、雪道を走らせる。タイヤからはね上がるしぶきから路面の塩分濃度を瞬時に測定、凍結防止に必要な塩分濃度と比較し、路面が安全か危険かどうか分かる。車内モニターや道

《山田技研の会社概要》

- ▽住所 福井市花堂南2の5の12
- ▽設立 1989年
- ▽従業員数 10人
- ▽事業規模 2015年6月期の売上高は1億5000万円



路管理者の事務所のパソコンで分かりやすく表示する仕組みだ。システムの価格は80万円〜900万円程度。10年ほど前に開発し、これまで高速道路会社など約80システムを納入

薬剤散布の適量管理

した。道路維持管理コストの上昇や、道路環境の悪化につながる凍結防止剤の「まきすぎ」を防ぐ

塩分濃度センサー（手前）が測定した路面の状況を画面に表示する

ことができる。同システムを開発した山田忠幸社長は「安全と環境と経済性。特に大事なのは事故を防ぐこと。従来は道路パトロールカーから人が降りてサンプリング調査し、安全性が問題だった」と話す。

気象観測に応用

創業は1987年に遡る。当時、山田社長は39歳だった。高校の電気科を卒業した後、電気設備会社のサラリーマンとして働いた。仕事の傍ら、自宅に興味があった融雪剤の製造は外注していたという。

山田社長は「独自性が最大のポイント。センサーのハード部分、センサーがもたらす情報を活用するソフトとも自分たちで考えている」と話す。

農業分野にも期待を寄せる。福井県の産学官の研究会に参加し、水田の水位管理システムを開発中。カメラやセンサーを使って水温などを把握し、水位を自動制御する仕組みだ。省力化が必要

だ。日本原子力研究開発機構と連携し、放射線のほかに温度、湿度などを測定できる機器を開発。環境省なども利用している。融雪関係で培ったデータ転送技術を応用した。

融雪の研究に熱心だった。雪氷以外の分野の開発にも取り組んでいる。一（福井支局長 石黒和宏）で管理している。もう一つの柱をつくるのが目標だ。

「雪氷以外でもう一つの柱をつくるのが目標だ。」

「雪氷以外でもう一つの柱をつくるのが目標だ。」

「雪氷以外でもう一つの柱をつくるのが目標だ。」

「雪氷以外でもう一つの柱をつくるのが目標だ。」

北陸

金沢支局 076-232-3311
富山支局 0776-432-3493
福井支局 0776-222-3493